

Vol.55

Vol.55 (2013年夏号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Column／他国カンファレンス 3

Best Practice and Competence／PM 事例・知識 5

Activities／支部活動 12

Topics/トピックス 16

PM Calendar／PM カレンダー 19

Fact Database／データベース 20

Editor's Note／編集後記 23

Column / 他国カンファレンス	3
『PMI South Korea Inaugural Conference 2013』の招待を受けて!	PMI日本支部 事務局長 田坂 真一
Best Practice and Competence / PM 事例・知識	
◆2013年5月度月例セミナー概要レポート	5
	PMI日本支部 セミナー記者 松本 弘明
◆グローバル・リーダー香港研修コース2013春(2日間)	
Global Leader Training in Hong Kong (2 Day Session) のご報告	7
	PMI日本支部 事務局長 田坂 真一
◆“PMのISO化 (ISO21500) ”最新動向のご紹介 その2	9
	PMI日本支部 会員 田島 彰二
Activities / 支部活動	12
- 部会紹介 ～ 女性PMコミュニティ WomenOBF (A Community Of the women, By the Women, For the women!) ～ - WG1 (現状把握)	WomenOBF WG1 高市 裕子
PMI日本フォーラム2013のご案内	14
Topics/トピックス	16
オフライン・セミナーの試行開始	PMI日本支部 事務局
PM Calendar / PM カレンダー	19
Fact Database / データベース	20
Editor's Note / 編集後記	23

◆ 商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。

「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Column／他国カンファレンス

■『PMI South Korea Inaugural Conference 2013』の招待を受けて！

PMI日本支部 事務局長 田坂 真一

PMI韓国支部のパク・ヨンミン会長は、支部設立1周年を記念しプロジェクトマネジメントの国際会議を開催しました。

この国際会議への招待を受けたPMI日本支部会長と事務局長が参加し、お祝いを述べてまいりました。

昨年4月まで足掛け4年以上にわたり支部設立のため、ヨンミン会長は苦勞を重ねられてきましたが、ついに本年国際会議開催を実現されたことに、PMI日本支部としても心よりお祝いを申し上げたいと思います。

国際会議は、ソウル市内の漢陽大学（PMI韓国支部スポンサー ハンニャン大学）の施設を利用し、5月4日、5日の2日間開催され、" Project Management Competency Development in Global Changing Environment " というテーマでドイツ、米国、北東アジア各国と幅広く講演者を募られていたのが印象的でした。

韓国支部にとっては、初めての経験であったはずですが、PMI日本支部が提供したPMI日本フォーラム・プロジェクトで使用しているWBSやマスター・スケジュール、教訓等をうまく参照され、またボランティアの献身的なサポートにより非常にうまく運営されていたのには驚きを隠せません。

韓国国内からも、韓国プロジェクトマネジメント協会

（KPMA）のキム・ジョンシン会長や韓国プロジェクトマネジメント学会のキム・スン Chol 会長の他、韓国企業、学校、公共機関などから多くの方々が参加し、大盛況でした。

ヨンミン韓国支部会長は開会の辞で支部設立後の1年を振り返り活動の成果を報告し、今後もプロジェクト管理の発展と普及のためにさまざまな活動を行うことを明らかにしていました。

韓国プロジェクトマネジメント協会のキム・ジョンシン会長は激励演説で、韓国でのプロジェクトマネジメントの重要性がますます大きくなっていると、PMI韓国支部と韓国プロジェクトマネジメント協会の協力関係を強調されていました。

キム・ジョンシン会長はPMIのPMP®を最初に韓国に導入し、プロジェクトマネジメントの発展と普及に努めた方でもあります。

2日間の印象としては、規模こそ大きくはありませんでしたが（PMI日本フォーラムの1/10程度）、よく組織化された国際会議であり、成功裏に終了しました。韓国から参加した方々のプロジェクトマネジメントへの期待の大きさと、すでに数多くの実績が韓国社会の発展に大きく貢献しているこ



会場の漢陽（ハンニャン）大学ビジネス・スクール
1933創立で敷地は広く大変美しい総合大学



漢陽大学の鳥瞰図
赤い矢印がコンファレンス会場

Column / 他国カンファレンス

■『PMI South Korea Inaugural Conference 2013』の招待を受けて！

とを韓国からの講演にて明らかにされるなどPMI日本支部も韓国支部と共に協力し合ってお互いの社会への貢献を推進したいと思います。

今回の開催期間は韓国の参加者に言わせれば「今は1年で最も美しい季節であり、君たちはラッキーだったね」とのことでした。確かに、伝統ある漢陽大学構内もよく整備され清潔で、日本で言うサツキ（あるいはツツジ）がそこかしこに

咲き乱れ心洗われる環境でした。

ただ、個人的にはハングル文字で統一された各種表記は漢字を見慣れている私にとってはなじむことが難しく、アジアの漢字圏の国を訪問している時とは、かなり違う印象も受けました。

幸いにも韓国支部のヨンミン会長はよく知った仲なので、お互い密に情報交換を継続し自国だけでなく北東アジアの発展に寄与できればと思っています。



マーク・ラングレーPMI会長兼プレジデントによる表彰式



カンファレンス終了後、招待者全員集合



みんなでI Like it!

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

2013年5月度月例セミナー概要レポート

PMI日本支部セミナー記者 松本 弘明

【セミナー概要】

- 開催期日：2013年5月10日(金) 19:00～21:00
- タイトル：プロジェクトを通じた人材戦略、人材育成の進め方、活かし方!! ～組織的アプローチと現場主義を融合させた新しい人材戦略、育成の形～
- 講師：株式会社アイ・ティ・イノベーション
プリンシパルアーキテクト
よこ お まさやす
横尾 誠康 氏
- 講師のプロフィール：

1960年生まれ。メーカ系のエンジニアとして自治体向けのシステム開発を経験後、株式会社ミルキーウェイ（後のインテュイット株式会社）にて、中小事業者向けの業務パッケージ開発、開発部門のマネジャーを経験。
2001年より同社にて、製品開発マネジメントや人材戦略／育成のコンサルティング、IT技術者のスキル診断サービス、方法論開発などを手がけ、人材・組織、プロセス、テクノロジーの変革に幅広く携わる。

【講演の様子】



【講演の狙い】

プロジェクト・マネジャーにとっての悩みの1つとして、より良い人材を自分のプロジェクト・チームになかなかアサインできないという経験があるのではないのでしょうか？ 良

い人材は待っていても来ない、では良い人材はプロジェクトを通して造ってしまおう、ということが本セミナーを企画した背景です。人材育成というと、組織的アプローチに終始しがちですが、現場プロジェクトを通じたOJTと組織の人材戦略を如何に融合させるか？ そもそも技術者を育成するために、組織やプロジェクト・マネジャーは何を準備し、どのような取り組みを行うべきなのか？ その具体的な考え方・進め方を実際の事例を交えて解説することを狙いとしてしました。

【講演内容】

最初に人材育成について、多くのマネジャーが抱えている悩みを振り返り、整理していただきました。

- ①いつ、誰に、どのような育成を行ったらよいかわからない
- ②そもそも人材育成の進め方（プロセス・段取り）がわからない
- ③どうやればスキルが身につくかわからない。

大別すると上記のような悩みに整理されます。これら悩みの解決にむけて具体的なステップを解説いただきました。

- ①本来一人一人の人材に適切なタイミングで育成指導をすることはとても難しいのですが、適切な育成のためには育成対象者自身が「何を目指しているか」、「どのような仕事をやり遂げるか」を知る必要があります。さらには「そのような人になりたい」と思えるかが重要となります。欧米では初めに階段の頂上を見せ、その後目の前のステップを上らせるやり方が多いのですが、このようなやり方であれば初期の挫折を経験した時の対応が変わる（簡単にはあきらめない）と考えられています。
- ②人材育成の進め方については、育成手段を用意するだけではなく、1年を通じて人材育成活動がきちんとマネジメントされていなければなりません。本来、プロジェクトマネジメントと同様にPDCAが備わっている必要があります（仕事が忙しくなると、後回しになりがち）。
- ③スキルを身につけるには、内容だけでなくタイミングも重要で、どのような気づき（ノウハウ、テクニック）を与え

■ 2013年5月度月例セミナー概要レポート

てくれるものがあり、それが、いつ役に立つのかを示す必要があります。

次に、スキルの中身と人材育成の方法について具体的に話していただきました。スキルは主に3つの要素で構成されます。「テクニカル・スキル」、「ヒューマン・スキル」、「コンセプチュアル・スキル」。コンセプチュアル・スキルとは、「論理的な思考や数値を扱う能力」です。

さて、エンジニアの傾向を分析した結果を見てみると面白いことがわかりました。テクニカル・スキルは比較的年齢が高くても上昇する傾向があるのに比べ、残り2つは30代中盤を過ぎると上昇しなくなるという結果でした。つまり何も手を打たないとこれら2つのスキルは伸びが期待できない、という内容でした。

それでは現在30代中盤以降の人間はどうすればいいのか？という疑問が出てくるかと思いますが、次のような事例を紹介いただきました。

「ヒューマン・スキル」、「コンセプチュアル・スキル」が飛躍的に向上したあるPMの育成事例の紹介です。その事例では、『IT開発の業務で実際に使える「実践力」の習得』をプログラムの方針として約4カ月の集合研修（5講座：計10日間）とOJT：10日、成果発表会1日を実施するというものでした。

研修の前後でスキル測定（自己評価、他者評価）を行ったところ、実に一般的なSI事業者の人材の5～10年分のスキル向上に相当する「ヒューマン・スキル」、「コンセプチュアル・スキル」の上昇が見られたとのこと。なお、研修参加者は8人中4人が36歳以上、2人が31歳～35歳でした。

この研修では、実践的で目的意識や適切な課題設定がなされており、くり返し「ヒューマン・スキル」、「コンセプチュアル・スキル」の向上が期待できる活動を実践していました。

次に、育成効果を高めるためにお勧めすることについて以下のポイントを挙げていただきました。

【プロジェクトの振り返りを行う】

実施結果の評価、今後に向けての課題や改善提案を参加者で話しあう（続けたいこと、挑戦したいことを明確にする）。

【振り返りの機会をさらに効果的にする】

プロジェクト外の人前で発表する。報告は結果発表だけで終わらせず、質疑応答を行い他プロジェクトでも生かせるノウハウを共有する。

【話し方や態度を改善する】

指導する立場の人には、話の内容だけでなく話し方や態度

もきちんと指導する。

最後に、人材育成のプロセスについて、個人・マネジャー・会社と3つの視点からみたモデルを説明いただきました。なお、今回紹介いただいた人材モデルや教育モデルは、ビジネスや技術の変化、育成プロセスの成熟度に合わせて評価と改善を繰り返す必要がある、とのことでした。

《講演目次》

1. 人材育成についての悩みを整理してみる
2. スキルを身に着けるために必要なこと
3. スキルの中身と人材の育成方法
4. ヒューマン・スキルとコンセプチュアル・スキルの育成事例
5. 育成効果を高めるためにお勧めすること
6. 人材育成のプロセス

【企画者からの感想】

今回の企画は筆者自身が日々課題だと感じている内容でしたので、打合せの時から当日の講演まで非常に多くの気づきをいただくことができました。

打合せの最初の段階で、『今回の受講者はPMが中心なので、人事担当者向けではなく、現場PMが業務の中で取り入れることのできる育成の考え方や手法を教えてほしい』、とリクエストさせていただきました。講師の横尾様は講演直前まで原稿を練りに練ってください、これまでのコンサル事例や自身の経験を交えて説明いただいたので、非常にわかりやすく腑に落ちる内容でした。

また、意外にも筆者自身の会社における人材育成方法や評価方法について、よい部分もあるのだと再確認できました（勿論、改善すべき点も見えましたが）。また、具体的に対応すべき課題も見えてきました。

実は月例セミナーでは、「人材育成」をテーマにした講演はあまり実施したことが無く、ある意味ではチャレンジだったわけですが、参加者のアンケート結果を見る限り非常に良い評価をいただきました。やはりPMのみなさんが日頃抱えている悩みに応える内容だったからでしょう。

今後のセミナーでは、人材育成の【事例】をさらに盛り込み、具体的なオペレーションの紹介まで踏み込んだ内容を語っていただける内容を企画したいと感じています。

他国カンファレンス報告

■ グローバル・リーダー香港研修コース 2013 春（2日間） Global Leader Training in Hong Kong (2 Day Session) のご報告

PMI日本支部 事務局長 田坂 真一

今年で2年目となった「グローバル・リーダー香港研修コース」を5月23日(木)～5月24日(金)にわたって開催し無事終了しました。

本コースは、グローバル・プロジェクトに携わるマネジャーやリーダーが直面するいろいろな問題を、英語ベースによって考え・話し合い、実際にグローバル・プロジェクトに立ち向かう姿勢や役立つ方法を学んでいただく研修です。ディベート、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、副次的に英語のブラッシュアップの機会にもなります。グローバルな環境下では、日本の常識が通用しにくいことも学んでいただきます。

今回は日本から5名（うち女性3名）、香港から4名（うち女性1名）の計9名という少人数での研修でしたが、その分1名当たりが発言する、いや発言を求められる機会が増えるということで参加者にとってはかえって充実したものになったものと思います。

昨年との違いを一言で言うと、初めて女性の参加があり、しかも構成比は約50%であったこと。そのほかに、研修内容が昨年来回数を経るにしたがい洗練されてきており、2日間を余すところなく有効に使い切ることができたということでしょうか。初日は2チーム、2日目は3チームに分かれて研修は進んでいきました。受講者の研修と自由時間の使い方も、今回が最も上手であったと思います。また、昨年は3日間コースでしたが1日減らした分、2日間とも集中力を保つことができたのははっきり分かりました。昨年は3日目にはかなり疲弊している参加者が見受けられましたが、今回は皆さん元

気いっぱい研修終了を迎えることができました。主催者としては、ほっと胸をなでおろす瞬間です。

今回もインストラクターは香港支部に所属するメンバーが担当し、当然ながら全て英語で進められました。かたわらで観察していて、インストラクターの容赦ない英語のスピードで最初はどうなることやと心配しましたが、貴重な経験であり現実に即したトレーニングであることに鑑み、ゆっくり話してくれるようにはあえて申し入れしませんでした。初日は、一部の日本人参加者を除いてインストラクターの英語は少し厳しいかなという印象を受けましたが、それでも食い下がり、何とか自分の意見を発信しようという姿勢を見ることができました。そうです、この姿勢が知らない環境にポイと投げ出された時にサバイバルして何とか事態をマネージするために必要な姿なのです。さすがに2日目には全員がちゃんと環境に合わせて積極的にトレーニングに対応されていたのには感心しました。要は、「やれば、できるじゃない！」ってことです。

このグローバル・トレーニングはPMIの組織力を十分に活用してできる研修イベントであり、PMIならではのコースであると自負しています。昨年来、PMI日本支部が仕掛け人となって香港、マカオ、台湾、韓国、チャイナがそれに乗ってコースが展開されてきましたし、PMIチャイナやPMI台湾から、今度は自分たちと共催しようという呼びかけを受けていることからして、彼らにとっても興味深い研修コースなのだとの思いを強くしています。次回以降は日本からもインストラクターを出し、インストラクターも国境を超えてトレーニングを提供する研修コースにできればと思っています。将

■他国カンファレンス報告

来のことをここで確定することはできませんが、世界中に散らばるPMIファミリーならではのベネフィットを十分に利用し、強い意志で前進させるべきテーマであり、乞うご期待ということで締めくくらせていただきます。

研修終了後の参加者からのコメント：

(1) 他の参加者より英語力が低い私にとっては、難易度が高い研修でしたが、非常に有意義な時間を過ごすことができました。多くの情報からリスクをキャッチし的確に定義すること、リスクに定義した理由を明確にすること、自分の意見をメンバーに伝え、最後まで諦めずに議論することの重要性を学びました。語学力が不十分のため、自分の意見を伝えきれない場面もあり、少し残念な思いもしましたが、他の参加者と議論することにより、プロジェクト・リスクについて、多くを学ばせていただきました。今後は、英語力を向上させると共に、プロジェクトマネジメントについても、より深く学んでいきたいと思います。

(2) とても良い経験となりました！ ありがとうございました。前回参加の方に聞いていたイメージより、こぢんまりとしていたところが、逆に良かったです。

(3) Of course, I have known risk management, because I have PMP. But in role-play, I could confirm my knowledge of risk management. That was good for me. And I have seldom experiences to participate English work shop, so discussion in English was good experience for me.

(4) 大変満足しております。講義の中で、英語でディスカッションする難しさを肌で感じることができました。また、講義中だけでなく食事の際なども他国からの参加者やPMIの方々とコミュニケーションをとることができたことも、良かった点だと感じています。これは、海外での開催だったことのメリットだと思います。PMIの活動への興味も強まりました。



チームCの香港メンバーによるプレゼン結果について
他チームからの異論/反論/オブジェクション・タイム



チームBメンバーによる課題検討中の様子



トレーニングの合間の集合写真



2日間のトレーニング終了後、雨空の合間を縫って
果敢にも全員で登ったビクトリア・ピーク（21：30頃）

■“PMのISO化 (ISO21500)”最新動向のご紹介 その2

PMI日本支部会員 田島 彰二

【はじめに】

今回は、PMのISO化 (ISO21500) の全体概要として、

- ISO21500の枠組み
- このISOで影響を受け始めたPMBOK®のこと
- ISO21500がどこで使われるのか

についてご説明しました。

前回予告しましたように、今後はその内容についてご説明します。

今回は、以下の2項目です。

- なぜ今PMをISO化するのか
- その内容とは

1. なぜ今、プロジェクトマネジメントをISO化するのか

いろいろなものをISO化する意味は、同じ機能を持つモノなのに、さまざまな地域や国で別の規格が定められており、不便をきたす事態に陥ったからです。最も単純にそれを説明するのが、家庭用電源の差し込み口の形状です。

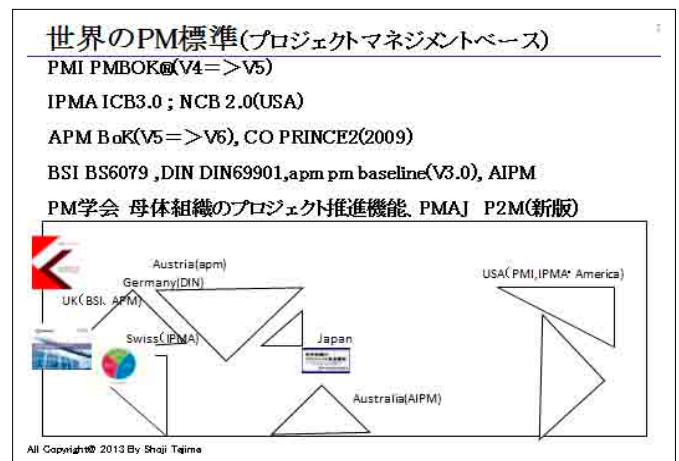


このように、目的・機能が同じであるのに、差し込み口の形状が違って使えなかったり、つなぐことができても装置によって容量・機能が違ったりすることから、利便性を考えるとシステム全体の装置規格を統一する必要性が生じます。これをなおざりにすると、正常に装置が動かないばかりか、火事などの惨事につながりかねません。

さて、では何故プロジェクトマネジメントでもそのような統一が必要なのか？

PMBOK®があるから十分ではないかとPMの方々は言われるかもしれませんが、それは大きな誤解です。世界（地域）には、さまざまなプロジェクトマネジメントに関する団体と標準類が存在します（世界のPM標準）。

当然PMIのPMBOK®の第5版が代表的なものですが、そのほかに、プロジェクトマネジメント関係の会員数で二番目に大きいIPMA（スイス本部）が発行しているICB（International Competence Baseline）のようなPM団体の標準、英国BSI（British Standards Institute）が定める国内標準などがあります。また、日本のPM学会が公表している“母体組織のプロジェクト推進機能”など日本特有の事情（ミドルクラスが重厚で、プロジェクトの離合集散を短期では行わない組織文化・風土の中でプロジェクトマネジメントを推進）に応じた標準類もあります。



各地（国）でプロジェクトマネジメントの進め方が違っていても、それらが域内で閉じたものであれば何ら問題は無かったのですが、複数の地域（国）に及ぶ大規模プロジェクトが出現し始めたあたりから、その影響・問題が徐々に顕在化してきました。共通のPM規格で動いていなかったために問題（意見の相違）が発生したのです。

これらの問題は実はこの何年かで生じたことではなく、

■他国カンファレンス報告

前世紀（20世紀）の終わりあたりから既にその兆候が見られ、統一を図る努力も始まっていました。しかし、この種の問題の共通化・標準化を進めることはなかなか難しかったようです（WEBで調べても、その失敗の様子が散見できます）。

具体的な弊害の例としては、カナダのシステムのようにプロジェクトがPMBOK®とPRINCE2®に関係する場合、発注側と受注（ベンダー）側の関係者間で用語や手順に齟齬をきたし、誤解を生じることが起こりました。似たような事態は、ヨーロッパ大陸でのシステム開発やPM教育の際に、IPMA®のICB3.0®とPMBOK®のどちらを使うのかなどとして、起こることがあります。

これらを根本的に解決するために、この6年ほどの間、共通化の作業が行われて来ました。その軌跡を下表（ISO21500標準化までの流れ）に記しました。

この表にあるように、英国（ロンドン）、米国（ワシントンDC）、ドイツ（ミュンヘン郊外）、日本（東京）、ブラジル（リオデジャネイロ）、フランス（パリ）と場所を変えて専門家が集中的にそれぞれ一週間をかけて審議を行っています。また、その前後にWEB会議も重ねて、コメントを出しあって集中的な作業をした結果が、ISO21500：2012です。小職は、その最初の会議から連続して参加し、初めて成果が出るまでの長い時間を各国の委員と共有してきました。

年月	会議	検討段階	
2007.1	TMB		委員会設置
2007.10	1. ロンドン	WD	エキスパートによる検討
2008.4	2. ワシントンDC	WD2	
2008.11	3. マイス/パッサ	WD3	
2009.6	4. 東京	WD4	
2010.7	5. リオデジャネイロ	CD	委員会レベルでの検討
2012.2	6. パリ	DIS	
		FDIS	
2012.9.1	IS発行	IS	発行

TMB, Technical Management Board
WD, Working Draft
CD, Committee Draft
DIS, Draft International Standard
FDIS, Final DIS
IS, International Standards

All Copyright © 2013 By Shoji Tajima

2. 記述内容

内容は、ISOの標準的なドキュメントらしく、Scope（適用範囲）から始まり、用語定義、主要な概念（今回の場合はプロジェクトに関する各種概念）、本編とも言える「プロジェ

クトマネジメントのプロセス」が入力・出力ともに記述されています。

ISO21500概要

1) 適用範囲 (Scope)

2) 用語

3) プロジェクトマネジメントの概念

（プロジェクト、プロジェクトマネジメント、組織の戦略及びプロジェクト、プロジェクトの環境、プロジェクトガバナンス、プロジェクト及び定常業務、ステークホルダー及びプロジェクト組織、プロジェクト要員のコンピテンシー、プロジェクトライフサイクル、プロジェクトの制約プロジェクトマネジメントの概念とプロセスとの関係）

4) プロジェクトマネジメントのプロセス

付録

All Copyright © 2013 By Shoji Tajima

(1) 適用範囲

Scope（適用範囲）は、“プロジェクトマネジメントの包括的な手引き（Guidance）を提供するものであり、公共、民間組織または団体を含む任意の組織形態が、その複雑さ、規模あるいは期間に関係なく、あらゆる形態のプロジェクトに使用することができます。

この国際規格は、プロジェクトマネジメントにおける適切な実践活動のための概念およびプロセスについて、高レベル（high-level）の説明を提供しています。プロジェクトは、プログラムおよびプロジェクト・ポートフォリオに関連付けられる（context）ものですが、この国際規格は、プログラムおよびプロジェクト・ポートフォリオのマネジメントに関する詳細な手引きは提供していません。一般的なマネジメントに関するトピックスは、プロジェクトマネジメントに関連する（context）限りにおいてのみとり上げる”と記述されています。

従来はISOのプロジェクト関係のドキュメントであり、単にプロジェクトマネジメントのみに着目して規格化されてきたのですが、今回は以下のような特徴があります。

- ・プロジェクト、プログラム、プロジェクト・ポートフォリオの三階層で規定していること
- ・プロジェクトと日常の定常業務の関係において規定していること
- ・将来の各種の（各国、各団体）の標準との関係において、それらの標準が後で出てきてもそれらを包含してhigh-

■他国カンファレンス報告

levelな標準になると書かれていること

この書きぶりは、実は当初はOverarching（屋上屋を架す）と評されていたほどで、ある意味では心の広い標準ガイドと言えそうです。これらには、当然Scopeの中で除外されている、プログラム、プロジェクト・ポートフォリオ標準が将来出て来ることも前提にしているはずです。

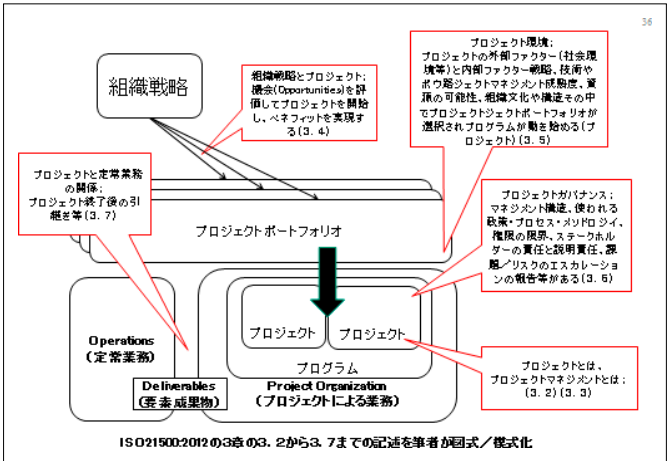
(2) プロジェクトマネジメント用語

Activityとしては、“プロジェクトを完遂するために取り組むことが必要な、スケジュール内において特定された作業の一要素”程度の用語が定義されています。

定義されている用語は、以下の“application area, baseline, change request, configuration management, control, corrective action, critical path, lag, lead, preventive action, project life cycle, risk register, stakeholder, tender, work breakdown structure dictionary”16単語です。

(3) プロジェクトマネジメントの概念

概念として説明されているのは、前述の10種程度です。それらの関係を、筆者流に模式化してみました（3章の3.2から3.7までの記述）。



(4) プロジェクトマネジメントのプロセス

以上に記した「プロジェクトの概念整理」の後で、それぞれのプロジェクトの目的、マネジメント概要定義、関係する主要項目、主要入力情報と出力情報が規定されています。

それらのプロセスはプロセス・グループとし、時系列的に「立ち上げ」、「計画」、「実施」、「コントロール」、「終了」に区分けされます。

また、その主要な管理目的ごとに、「統合」、「ステークホルダー」、「スコープ」、「資源」、「タイム」、「コスト」、「リスク」、「品質」、「購買」、「コミュニケーション」の各マネジメントに分けられています。そのマネジメント項目をマトリックスで表現すると、下表のようなプロジェクトマネジメントのプロセス・グループとサブジェクト・グループのクロス・レファレンスとなります。

ISO21500表1 プロジェクトマネジメントのプロセスグループとサブジェクトグループのクロス・レファレンス					
サブジェクトグループ	立ち上げ	計画	実施 (Implementation)	コントロール	終結
統合	4.3.2 プロジェクト準備	4.3.3 プロジェクト準備	4.3.4 プロジェクト準備	4.3.5 プロジェクト準備 4.3.6 変更コントロール 4.3.7 資源コントロール	4.3.8 プロジェクト準備 4.3.9 資源コントロール 4.3.10 終結
ステークホルダー	4.3.10 ステークホルダー 管理	4.3.11 スコープ管理	4.3.12 品質管理	4.3.13 スコープコントロール	
スコープ	4.3.14 プロジェクト 管理	4.3.15 プロジェクト 管理	4.3.16 プロジェクト 管理	4.3.17 プロジェクト 管理	
資源 (リソース)	4.3.18 プロジェクト 管理	4.3.19 プロジェクト 管理	4.3.20 プロジェクト 管理	4.3.21 プロジェクト 管理	
タイム	4.3.22 プロジェクト 管理	4.3.23 プロジェクト 管理	4.3.24 プロジェクト 管理	4.3.25 プロジェクト 管理	
コスト	4.3.26 プロジェクト 管理	4.3.27 プロジェクト 管理	4.3.28 プロジェクト 管理	4.3.29 プロジェクト 管理	
リスク	4.3.30 プロジェクト 管理	4.3.31 プロジェクト 管理	4.3.32 プロジェクト 管理	4.3.33 プロジェクト 管理	
品質	4.3.34 プロジェクト 管理	4.3.35 プロジェクト 管理	4.3.36 プロジェクト 管理	4.3.37 プロジェクト 管理	
調達	4.3.38 プロジェクト 管理	4.3.39 プロジェクト 管理	4.3.40 プロジェクト 管理	4.3.41 プロジェクト 管理	
コミュニケーション	4.3.42 プロジェクト 管理	4.3.43 プロジェクト 管理	4.3.44 プロジェクト 管理	4.3.45 プロジェクト 管理	

【次号の予告】

今回はISO21500の内容を説明しましたので、次回はISO21500が発行された後の話をさせていただきます。

Activities / 支部活動

■ 部会紹介 ～女性PMコミュニティ WomenOBF (A Community Of the women, By the Women, For the women!) ～ WG1 (現状把握)

WomenOBF WG1 高市 裕子

● はじめに

WomenOBFでは、3つのテーマごとにWGを設けて女性PMに関する検討を進めています。

(研究会全体、各WGのテーマに関しては前号をご覧ください)。

この度、ニューズレターを通して、各WG活動を順次ご紹介していくこととしました。まずはWG1です。

WG1ではすべての検討のベースとなる「As-Is 現状把握」をテーマとして、日本における女性PMの現状を把握すべく、情報収集を行ってきました。

● 現状調査アンケート概要

みなさんの職場にもPMとして活躍している方を含め、さまざまな立場や役割の女性がいます。もしかしたら、周りには女性が全くいない環境もあるかもしれません。しかしながら、よほど多種多様な組織を渡り歩かない限り、職場環境として把握しているのはごく狭い範囲であることや(知らぬ間に、自分がいる環境が「当たり前」になっていませんか?)、普段一緒に働いている女性たちが何を考えているのかまで把握できるわけではありません。

私たちは昨年、女性のこのような“生の声”も含めた現状調査をアンケートにて実施しました。

<アンケート概要>

- ☐ 目的：女性PMの現状、課題などの把握
- ☐ 期間：2012年8月22日(水)～9月4日(火)
- ☐ 対象者：プロジェクト型の仕事に従事する女性
- ☐ 形式：電子メールを介した調査票(Excel/テキスト形式)の配布/回収(無記名制、選択形式/自由記述式)
- ☐ 回答数：201

● 調査結果

WG1では、アンケート実施に当たり、以下の仮説を立てていました。

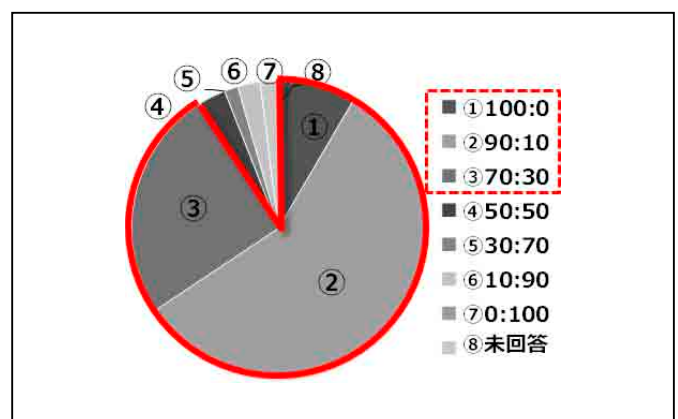
仮説1：日本に女性PM、PM候補者が少ないというのは本当か？

仮説2：女性PMが少ないのは、「アサインされる希望はあるが、機会を与えられない」ことが原因ではないか？

仮説1に関して、「回答者の職場におけるPM経験者の男女比」について、図1の①～⑦から一番近いものを選択形式で回答いただきました。回答結果の分布は図1の円グラフの通り、職場におけるPM経験者のうち、女性が占める割合が3割以下(男女比が100:0、90:10、または70:30)という回答が全体の90%を占めていました。また、日本におけるPMP資格保持者は男性73.9%に対して女性は5.8%(残りの20.3%は性別無記載)という情報^(※1)もあります。

これらを踏まえると、やはり日本においては女性PMの存在はまだ希少と言えるでしょう。

図1 職場におけるPM経験者の男女比



※1：PMI日本支部からの情報提供に基づく。

■部会紹介 ～女性PMコミュニティ WomenOBF WG1 活動紹介

図2 PMへのアサイン機会有無と希望有無



図3 「アサイン機会有無」「アサイン希望有無」の各理由



一方、仮説2について、「PMへのアサイン機会有無」と、「アサインへの希望有無」をそれぞれ有り／無しの2択で回答いただき、結果をクロス分析したところ、図2に示すように「アサインを希望しており、実際に機会を得られている」のは全体の52%ということが分かりました。回答者のうち半分は、何らかの理由で機会がなかったり、アサインされること自体を希望していなかったり、というわけです。

これについて、私たちが当初立てた仮説に基づくと、「アサインされる希望はあるが、機会がない」人が多数を占めるはずですが、実際は全体の7%に過ぎず、それよりもアサインされることを希望していない人、特に、「機会はあるのに希望していない」という回答者の割合が21%と多くなっています。

この結果から、女性PMが少ない理由としてはアサインの機会が少ないわけではなく、何らかの理由によりアサインされることを希望していない、ということが分かりました。

また、アサインを希望する／希望しない理由や、機会がない理由として考えられることとして、自由記述から以下のような傾向を確認できました。上記、「機会はあるのに希望していない」(全体の21%)領域の「アサインを希望しない理由」に注目すると、ワークライフバランス(家庭との両立など)が崩れることへの懸念やPMという役割に魅力を感じないという回答が多く得られています。

●まとめと、今後の活動に向けて

上記調査結果から、女性PMを増やすためには、例えば女性管理職の比率をいつまでに〇〇%にするといったKPI設定や、登用を優先する制度を作ればよいという単純な話ではないと考えます。

まずはPM業務に関して女性が参画しやすい環境づくりや、それ以前にPM業務に対する魅力向上の取り組みが、PMへのアサインを希望する人を増やすためには必要不可欠と言えるのではないのでしょうか(後者は、性別を問わず必要なテーマと言えます)。

このような日本の現状を踏まえ、今年は海外の女性PMと日本の現状との比較を行い、日本における女性PMの課題提起とその解決策のヒントを探るべく、WG1で活動を継続しています。

統計的な情報だけでなく、女性の“生の声”を、同じ女性だけでなく、共に働く男性も含めて広く知っていただくことで、組織としてあるいはプロジェクトとして成果を最大化するための一助になれば幸いです。

●ご参考

昨年実施したアンケートの結果は、PMI日本支部サイトに公開中ですので、ぜひご一読ください。

https://www.pmi-japan.org/topics/pm/wg1_survey_2012.php

PMI日本フォーラム 2013のご案内



一般社団法人PMI日本支部 主催

PMI日本フォーラム 2013のご案内

今年も盛夏のもと、PMI Japan Forum 2013を開催できる運びとなりました。ひとえにご支援、ご協力いただいている会員の皆さま、法人スポンサーの皆さま、アカデミック・スポンサーの皆さまのおかげと深く感謝しております。また当フォーラムの運営を支えていただいている会員ボランティアの皆さまにも、厚くお礼申し上げます。

東日本大震災からの復興は思うほどのスピードでは進んでおりません。福島原発事故の収束も懸命の努力が続けられているにもかかわらず、まだ時間がかかる模様です。その一方で政権交代後、にわかに経済が持ち直したのありがたい限りです。しかし超円高が収まっても、多くの日本企業のグローバル化を促進する動きには変わりありません。これまでの成功に安住したり市場適応に失敗したりすると、あっという間に転落するという厳しい状況認識もまた、すっかり定着したと思われます。

このような状況下で、日本経済がさらに活性化し、日本企業が世界規模の市場競争を生き抜くには、他社をしのぐ魅力ある製品・サービスをタイムリーに提供するイノベーションの実現が必須です。イノベーションをどのように実現するかは企業総力の取り組みとなります。さらに、戦略起動のプロジェクトが増え、かつ連鎖的に遂行されるため、集中と選択の意志決定や、定めた戦略を確実に遂行するために、論理的で実証性のあるマネジメントの枠組みが不可欠となっています。つまり、ポートフォリオマネジメントやプログラムマネジメントの適用と論理的な枠組みの導入はまさに時代の要請なのです。

時代の要請に応えるプロジェクトマネジメントへとリードすべく、今年のフォーラムはテーマを「進化するプロジェクトマネジメント」とさせていただきます。サブタイトルを「プログラムとグローバル第2章」とすることにより、昨年から継続したテーマの深掘りを目指します。

最後に、PMI Japan Forumの運営にあたっては、昨年も会員ボランティアの皆さまのおかげで、満員の会場における複数講演の並行開催を無事に乗り切ることができました。今年も皆さまのご理解とご協力をお願いしなければなりません。この場を借りて、謹んでお願い申し上げます。

進化する プロジェクト マネジメント

～プログラムとグローバル

第2章～

■開催日 2013年 **8月3日(土)～4日(日)**

受付開始…………… 10:00～(3日)、9:30～(4日)

講 演…………… 10:30～18:25(3日)
10:00～18:00(4日)

ネットワーキング… 18:40～20:40(3日のみ)

※ ネットワーキングとは、人的ネットワークを作る集まりのこと。PMという同じテーマを抱えた同士が語り合うことでさまざまなヒントを得ることが目的です。初めての方も、ぜひご参加ください。

■講演会場

学術総合センター

■ネットワーキング会場

ニッコトラスト・レストラン (学術総合センター 3F)



学術総合センター 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 03-4212-6321
東京メトロ半蔵門線/都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」A8,9出口
東京メトロ東西線「竹橋」1B出口

■参加費 (税込)

	参加費					受講証明		
	PMI 日本支部 会員	法人 スポンサー	PMI本部 会員	PMP® 資格者	一般	PDU	PMP受験用 受講証明	ITコーディネータ 受講証明
1日参加	16,000円	18,000円	21,000円	24,000円	27,000円	6PDU	6時間	6時間
両日参加	24,000円	26,000円	31,000円	36,000円	40,000円	12PDU	12時間	12時間
ネット ワーキング	4,000円	4,000円	4,000円	4,000円	5,000円	—	—	—

フォーラム受講申し込みはPMI日本フォーラム2013公式サイトから
(日本語) <http://www.pmi-japanforum.org/pmij/forum-2013/index.html>
(英語) <http://www.pmi-japanforum.org/pmij/forum-2013/e/index.html>

申し込みに関するお問合せはPMI日本フォーラム受付窓口へ

e-mail: forum-2013@pmi-japan.org

☐ 支部会員の方はお得な支部会員料金でご参加いただけます。この機会に支部への入会をご検討ください。

☐ 申し込み割引制度
2013年7月12日までに参加費精算完了の場合に、上記参加費から、
・ PMI日本支部会員、法人スポンサー、PMI本部会員、PMP®資格者の方は、2,000円割引の料金で、
・ 一般の方は、1,000円割引の料金で参加できます。

☐ 参加費用精算後のキャンセルはお受けできません。確実に参加いただけることを確認の上お申し込みください。

☐ お申し込みより10営業日までに精算未済の場合、断りなくお申し込みを取り消させていただきます場合があります。

☐ ご注意

① 申し込みは1日単位です。半日単位や1講座のみの申込みはできません。

② 1日目: 13時40分～18時25分、2日目: 10時～18時00分は複数トラック方式のプログラムです。

受講申込みの際、参加を希望する講演を各時間ごとに選択してください。

Activities / 支部活動

■PMI日本フォーラム2013のご案内

■プログラム構成

8月3日(土)

PMI JAPAN FORUM 2013

【メイントラック】		【併設トラック】												
トラック名称	招待講演	PPM / EVM	PM一般	人材育成 / 事例・手法	事例・手法	グローバル	アカデミック							
10:30 ~ 10:40	開会挨拶 神庭弘年 PMI日本支部 会長													
10:40 ~ 11:40	基調講演 遠藤統一 内閣官房内閣情報通信政策監 [政府 CIO] 「電子行政の推進に関する 取組と展望」	M-1												
11:50 ~ 12:50	基調講演 Steve DelGrosso PMI本部理事 「戦略的PMO」	M-2												
12:50 ~ 13:40	昼 休 み (60分)													
13:40 ~ 14:40	久保田 隆 千代田化工建設㈱ 代表取締役会長 「進化する プロジェクトマネジメント」	M-3	日坂佳世・中谷英雄 PFM/PGM研究会 「強いリーダーが フレームワーク(Agile-PPP) の発信者となれ!!」	A-1	鬼束孝則・ 野々市谷有里 セミナー委員会 「イベント型プロジェクトに おけるプロジェクト マネジメント手法」	B-1	鈴木浩之 アーケイディア・ コンサルティング㈱ 代表取締役 「プロジェクト・マネージャ の個性別の効果的な コミュニケーション手法」	C-1	野田昭司 関西プランチ IT上流工程研究会 「プロジェクトの成功は 利用者視点にある ＝利便性 (UX) と 向き合うPM」	D-1	Anna Y. Khodijah PMIインドネシア支部 理事 「インドネシアにおける 未来のプロジェクト マネジメント・リーダーの 潜在力開発」	E-1	井上雅裕 芝浦工業大学 教授 「芝浦工業大学の グローバル人材育成の 取り組みと国際PBL」	F-1
14:55 ~ 15:55	田邊昌彦 広島県庁総務局 経営戦略審議官 「日本一強い県庁を目指して」	M-4	白坂成功・林 宏典 PFM/PGM研究会 「世界を変える プログラムのために」	A-2	三浦重郎 APMG International Mun Kit CHOONG 「クラウド時代のアウト ソーシング・プロジェクト の進め方と、SGF資格紹介」	B-2	齊藤 学 教育委員会 「PBL手法を活用した ソーシャルイノベーション を考えた実践的 プロジェクトの取組み」	C-2	澤 伸夫 関西プランチ 医療PM研究会 「医療ITプロジェクトの 課題と解決策の提案」	D-2	Ray Ju PMIサンフランシスコ・ ペイエリア支部 元会長 「適応と協働により 成長を目指す」	E-2	本間利久 北海道大学 サステナビリティ学 教育研究センター名誉教授 「最近の GAC および EF の動向について」	F-2
16:10 ~ 17:10	Qian shi 同済大学 教授 「プロジェクトマネジメント 教育の学習成果を 高めるには：同済大学の ケース・スタディ」	M-5	泉澤聖一 EVM研究会 「手法を拡張した EVMの必要性とその意味」	A-3	浦田有佳里・成松秀夫 関西プランチ運営委員会 「プロジェクト マネジメントの普及と 新たな関西プランチ」	B-3	十返文子・今野浩一 教育委員会 「初等中等教育における ジュニアPM教育の 現状と今後」	C-3	梅田弘之 株式会社インテグレート 代表取締役社長 「業界初の衝撃、 設計書ジェネレーターで 設計革命」	D-3	Rossana Ho PMI香港支部 会長 「変化を導くための イノベーションを通じた コンピテンシー開発」 PAK CHEONG WONG PMIマカオ支部準備委員会 議長 「マカオにおける ゲーミング・プロジェクト 開発のインパクト」	E-3	山戸昭三 筑波大学大学院 教授 「実証客を対象とした 筑波大学PBLの取り組み」	F-3
17:25 ~ 18:25	宮原勲治 川崎医療福祉大学 医療情報学科 教授 「医療ITプロジェクトの 特徴と医療業界への 参入戦略」	M-6	青木卓巳 EVM研究会 「EVM利用実態アンケート 調査結果から見た EVM導入の課題と対策」	A-4	高橋正憲・川崎晶司 災害復興支援プログラム 「PMI日本支部の 災害復興支援プログラム ～復興支援から ソーシャル・プロジェクト マネジメントへ～」	B-4	渡辺和宣・清水千博 バリューチェーンプロセス 協議会理事長・ 株式会社KBマネジメント 代表取締役 「GUTSY-4による日本初の BABOK準拠のビジネス アナリシス教育と訓練体系」	C-4	伊熊昭等 ステークホルダー委員会 「福澤諭吉翁の「独立自尊」 に学ぶプロジェクト マネジメントの活用術」	D-4	Young Min Park PMI韓国支部 会長 「PMBOK®ガイド以前の プロジェクトマネジメント」 Jack Hsieh PMI北東アジア・ リージョン・メンター 「北アジア太平洋地域の プロジェクトマネジメント の現状」	E-4	小林真也 愛媛大学大学院 教授 「愛媛大学における 実践教育への取り組み」	F-4
18:40 ~ 20:40	ネットワーキング													

8月4日(日)

【メイントラック】		【併設トラック】									
トラック名称	招待講演	リスクマネジメント／PMO	PM一般		人材育成／事例・手法		OPM／事例・手法		グローバル／PMBOK®		アカデミック
10:00～11:00	木下雅裕 ニッセイ 情報テクノロジー㈱ 執行役員JP事業本部本部長 [「新統合開発 激闘の軌跡」]	M-7 足立康子・村山正宗 RM研究会 [「プロジェクトの現場に リスクマネジメントを 定着させるために」]	G-1 中村亜子・高橋 素 WomenOPB [「プロジェクト現場を 活性化する『女性PM力』」]	B-5 竹内博樹・三好きよみ 法人スポンサー 人材育成SG [「人格コンピテンシーを 見極める」]	C-5 小暮 豊 関西プランチ 定量的PM事例研究会 [「クリティカル・チェーン・ プロジェクトを守る」] Simon H.Fu PMI台湾支部 会長 [「国際的価値の ローカライゼーション その課題と機会」]	H-1 Amin Leiman PMIハワイ支部 元会長 [「サイバー攻撃から プロジェクトを守る」] Simon H.Fu PMI台湾支部 会長 [「国際的価値の ローカライゼーション その課題と機会」]	J-1 松島桂樹 武蔵大学 教授 [「学生が成長する コーチング型教育」]	F-5			
	中安一幸 厚生労働省政策統括官付情報 政策担当参事官室 室長補佐 策定中	M-8 河端三千男 GPM研究会 [「PMI新標準における PPPのリスクマネジメント」]	G-2 渡邊恒文・杉村博章 PM用語委員会 [「PMI新標準における 用語研究と、 PMBOK®-Fifth Edの 用語解説」]	B-6 高林一美・麻生重樹・ 山内伸信 法人スポンサー 若手PM育成SG [「PM職、若手のPM職に 対するモチベーションを 維持・向上するには?」]	C-6 中江 功 関西プランチ 定量的PM事例研究会 [「Critical Chain Method 適用によるプロジェクト マネジメントの革新」]	H-2 勝連城二・中西義知 PMBOK®セミナー プログラム [「PMBOK®セミナーから みるPMBOK®東西比較論」]	J-2 討論セッション Qian shi, Ray Ju, フォーラム参加諸先生 [「中国および日本における プロジェクトマネジメント 教育」]	F-6			
12:15～13:15	昼 休 み (60分)										
13:15～14:15	Sophie Su Taipei Taiwan Chapter [中国における ヘルスケアプロジェクト]	M-9 谷川雅俊 RM研究会 [「プロジェクト・リスクの ポジティブな影響に関する 考察」]	G-3 最上千佳子 日本クイーンズ 代表 [「PMの世界へITIL®の エッセンスを 伝えるために...」]	B-7 今仁武臣 法人スポンサー グローバルPMSG [「グローバルプロジェクト マネジメント」]	C-7 河々谷健一・池田修一 組織成熟度研究会 [「プロジェクトを支える 「組織」とは?」]	H-3 堀尾洋人・渡部進也 関西プランチ PM創生研究会 [「日本のプロジェクト風土 の中で闘うあなたに贈る、 新プロジェクト指南書」]	J-3 寛 達彦 早稲田大学 教授 [「PMははじめの一步」]	F-7			
	西澤信二 東京急行電鉄株式会社開発事業 本部ビル事業部渋谷ヒカリエ工 場部 統括部長 [「渋谷ヒカリエ開業 プロジェクト 街をつなぐ、 人と人の時間をつなぐ」]	M-10 山本一朗・日改徳雄 PMO研究会 [「戦略的PMO実践編 (その1)」]	G-4 山添 晃・大西正晃 関西プランチ PM創生研究会 [「プロジェクトを成功に導く 人間関係マネジメントの研究」]	B-8 前田和哉 株式会社クリエイト イノベーション事業部長 [「良い人材育成と 悪い人材育成とは?」]	C-8 田島彰二・斎藤真秀 組織成熟度研究会 [「組織活動にPMを 適用するには?」] ISOからAgileまで!!]	H-4 池上光太郎・入江宣之 IT研究会 [「PMBOK®ガイド ソフトウェア拡張版 (公開草案)の紹介」]	J-4 内海康雄 仙台大専門学校 副校長 [「仙台大専の産学連携と 社会人を含めた 教育プロジェクト」]	F-8			
15:45～16:45	吉川 仁 I&Tリソースソリューションズ㈱ 海外事業部長 [「海外プロジェクトリスクの 現場の実態」]	M-11 高橋一郎・松田民也 PMO研究会 [「戦略的PMO実践編 (その2)」]	G-5 柳井亨夫・山崎千登勢 翻訳出版委員会 [「戦艦大和建造とスケジュー リング-PART1」]	B-9 野崎晴雄 地域サービス委員会 (北陸地域) [「もし大学4年生が 「プロジェクトマネジメント」 を実行したらーその後」]	C-9 関 和美 株式会社・ティ イノベーション [「女性が活躍する場づくり」]	H-5 山本雅也・庄司敬浩 PMBOK®委員会 [「PMBOK®ガイド第5版は 何が変わったか?」]	J-5 加藤清介 金沢工業大学 教授 [「金沢工大における 実践教育の取り組み」]	F-9			
	藤井 聡 京都大学大学院 工学研究科 教授 [「アベノミクスと国土強靱化」]	M-12 田島彰二・大西 純・ 駒場研成 PMO研究会 [「IT発注者組織PMOの ありかた (提言)」]	G-6 広瀬久士・田中史朗 翻訳出版委員会 [「戦艦大和建造から EVMへの発展-Part2」]	B-10 中谷公巳 アジャイルPM研究会 準備プロジェクト [「実現されてこそ戦略 事例に見るアジャイル プロジェクトマネジメント の適用と有用性」]	C-10 水井樹子・塩田宏治 PMCDF実践研究会 [「実践! PMCDF活用術 PMコンピテンシー 育成ワークショップ」]	H-6 川俣賢一・山中良文 PMBOK®委員会 [「PMBOK®から見る PM標準」]	J-6 上西啓介 大阪大学大学院 教授 [「大学院生向け OJE教育の実践」]	F-10			

Topics / トピックス

■ オフライン・セミナーの試行開始

■ 月例セミナーなど首都圏で開催しているPDU発行セミナーの首都圏外への配信

PMI日本支部 事務局

ご好評いただいている月例セミナーは、インターネットを介したリアルタイム配信をこれまで何度か行い、地方で活動されているPMの方々にも旬の情報を共有させていただきました。

しかし、回線状況や配信ソフト等複数の要因が関係してうまくお届けできないケースが発生したため、本年の途中より提供を断念していました。

しかし、地方の方から「セミナー終了後でいいので、ビデオで聴講できないか？」との声が多数寄せられました。

これを受けて事務局内で検討を重ねた結果、本年5月より、以下の要領でオフラインによる提供プログラムを試行開始しました。

セミナーにご興味を抱かれつつも会場にお越しになれなかった方（地方在住の方だけでなく、東京近郊にお住まいの方を含めて）は、下記要領をご了解の上奮ってご応募ください。



◆ 配信内容

- 東京会場にて実施した教室形式のセミナー・イベントで、基本的には2時間（2PDU）コース
- 講師とスクリーンを同一画面に収めた定点撮影による映像（音声を含む）
- 講師登壇、セミナー開始、途中休憩、セミナー終了後の数分間など、内容に関係ない部分も全て含まれており、事務局側で編集・加工を行っていない無修正映像（音声を含む）



5月月例セミナーの画面例

◆ 受講申し込みの条件

- ① コーディネータ1名とその他受講者を合わせて数名（5名を目安）が確保できている
- ② コーディネータは日本支部会員であり、下記③のほかオプションとして④が可能である
- ③ 受講するための会議室あるいはセパレータのある個室スペース等と、Windows7またはWindows8のPCを準備で

Topics / トピックス

■オフライン・セミナーの試行開始

きる

- ④プロジェクターと映像投影用スクリーンが用意できる（オプション）

◆事務局からの貸与・配布物

下記①、②、③をコーディネータ宛てに事前に送付します。

- ①セミナーを収録したブルーレイ・ディスク
 ②外付け式ブルーレイ・ディスク対応プレーヤー
 ③受講者数分のPDF版ハンズアウト（東京で実施したセミナーでの配布物と同じもの）
 なお、PDF版ハンズアウトのコピー、二次配布は禁止です

◆受講形式

- 事務局に申告いただき調整・合意した日時、場所で全員一斉に受講いただきます（合意した受講日を変えることはできません）
- コーディネータは受講者と一緒に受講いただきます
- コーディネータは受講終了後、速やかに（原則として翌日のうちに）ブルーレイ・ディスク、プレーヤーを同梱し事務局に着払いで返送します
- コーディネータは当日の出席簿をメールにて事務局に報告

していただきます

◆受講費用

- 受講料は首都圏で開催するセミナーの場合と同じです（ホームページで案内します）
- コーディネータは半額です

◆PDU、領収書の発行要領

- セミナー受講の翌々営業日をめどに領収書（PDF版）を送ります
- 事務局に出席簿が到着した後、出席状況を確認し5営業日以内にe-アンケート（URL）を受講者に配布します
- 受講者はe-アンケートに回答し完了ボタンを押してください（自動的に事務局に送信されます）
- アンケートに回答いただいたことを事務局で確認後、5営業日以内PDU受講証明書（PDF版）を送ります

◆おおよそのスケジュール感

- 1サイクルは送付2日、受講1日、返送2日の5日間を基準として運用します（受講日の延長はできません）。

【機材貸し出し ⇒ 受講 ⇒ 返却】

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
事務局	機材・冊子の発送				機材の受領
コーディネータ		機材・冊子の受領	セミナー受講	機材返送	

【アンケート、PDU受講証明発行】

	1日目	2日目	3日目	...	11日目	※
事務局			領収書とアンケートURL送付		アンケート回答 ×切り	PDU送付
コーディネータ	セミナー受講	出席者名簿の報告（メール）		アンケート回答		PDU受領
受講者	セミナー受講			アンケート回答		PDU受領

※ アンケート回答受領日以降5営業日以内

Topics / トピックス

■オフライン・セミナーの試行開始

◆その他 ご留意いただきたい事項

- 試行を経て、運用方法を断りなく変えたり取り止めたりする可能性があることをご承知置きください
- 映像や配布物の著作権その他の権利は講師の所属会社に帰属します。複製や二次配布は禁止です

- オフライン・セミナーの提供は、当該講師から許可を得られたコースに限ります
- ワークショップ形式のコースは提供対象外です

現在、2013年の4月度、5月度、6月度、計3つの月例セミナーの提供を用意しています。

まずは、コーディネータとしての要件を満たしたからのご応募をお待ちしています。

現在提供しているオフライン・セミナー

対 象	4月度 月例セミナー	5月度 月例セミナー	6月度 月例セミナー
テーマ	人を動かすコミュニケーションの構造 ～ 人間行動科学および音声言語学的見地からの「伝える技術」～	プロジェクトを通じた人材戦略、人材育成の進め方、活かし方!! ～ 組織的アプローチと現場主義を融合させた新しい人材戦略、育成の形～	最大のリスク、ヒューマンエラーをどう防ぐか ～ 大事故に繋がりがねないヒューマンエラーを“うっかりミス”として終らせない～
講 師	(株)日立製作所 中央研究所 主管研究員 北原 義典 氏	(株)アイ・ティ・イノベーション プリンシパルアーキテクト 横尾 誠康 氏	独立行政法人 産業技術総合研究所 セキュアシステム研究部門 主任研究員 中田 亨 氏
詳 細	http://bit.ly/W1Kwuv	http://bit.ly/14rH94Z	http://bit.ly/12Ypldq

◆今後の予定

- 今回は、コーディネータが中心となって複数名で同時受講していただく方式で試行開始しましたが、これとは別に個人単位で（かつ、複数のセミナーを）受講いただける方式

も検討中です。この方式では、機材・資料の発送・返送代金を個人でご負担いただくことになると想定しています。

- 今後も、地方在住の方々向けにサービス向上を図っていくこととしています。どうぞご期待ください。

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。

詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

■ PMI日本支部関連イベント

● 2013年度 PMI日本フォーラム2013

〔設立15周年記念〕

「進化するプロジェクトマネジメント」
～プログラムとグローバル 第2章～

- 日時：2013年8月3日(土)・4日(日)
- 場所：学術総合センター（東京・神保町）
- 12PDU

● 2013年度 Japan Festa2013

「No Challenge, No Success !!」

～今ここに留まる危機。激動する時代に取り残されないために～

- 日時：2013年11月9日(土)・10日(日)
- 場所：慶應義塾大学日吉キャンパス 協生館
藤原洋記念ホール
- 11PDU

■ PMI日本支部関連セミナー

● 中部地域フリーセミナー

「PMP®によって創成される、日本におけるプロジェクト
マネジメントの未来」
～PMBOK®第5版発行による未来～

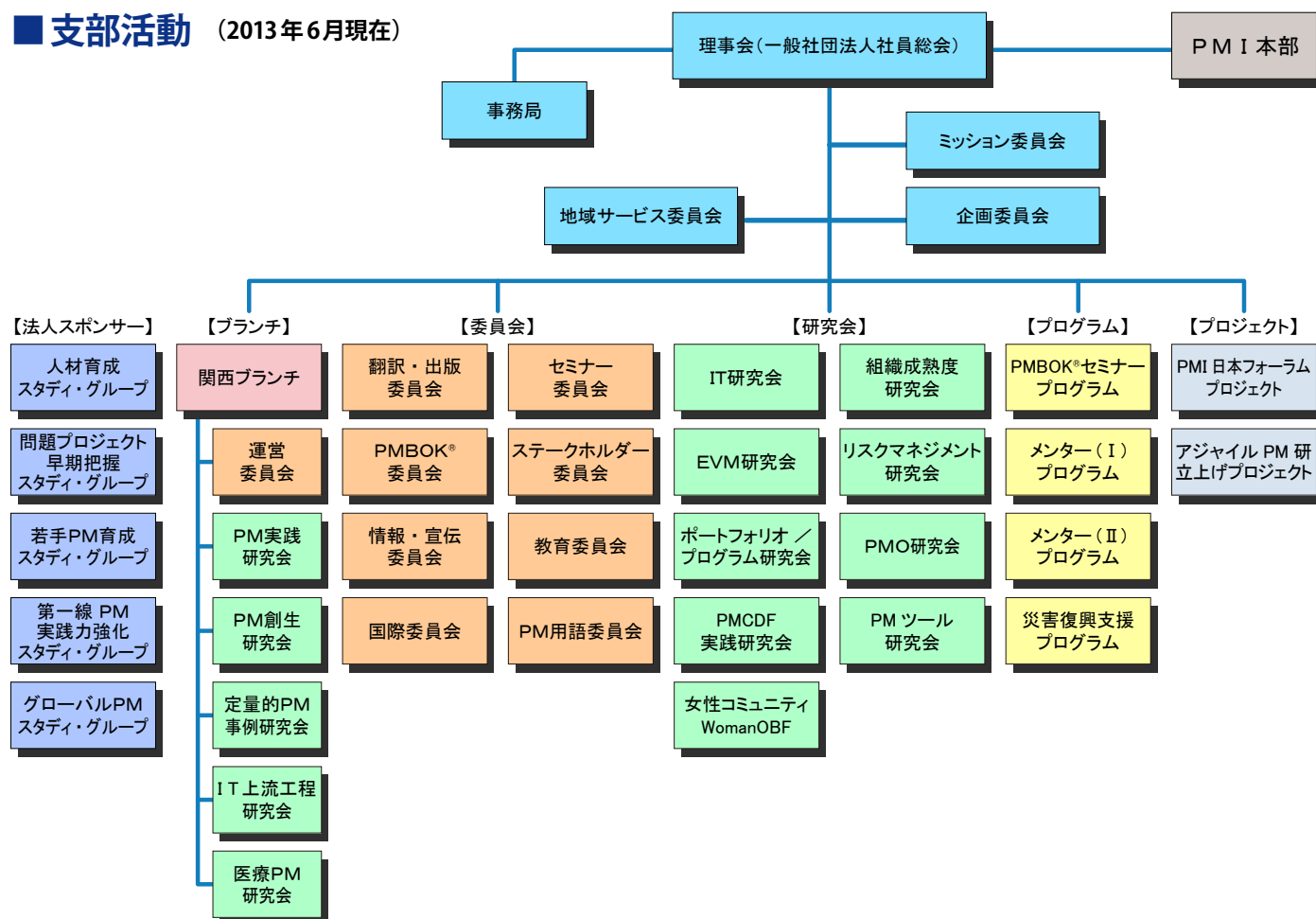
- 日時：7月24日(水) 18:30～20:30
- 場所：愛知県産業労働センター ウィンクあいち
- 2PDU

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI 日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2013年6月現在)



■ 理事一覧 (2013年6月現在)

会 長	： 神 庭 弘 年	(神庭PM研究所)
副会長 (マーケティング担当)	： 奥 沢 薫	(日本電気株式会社)
副会長 (研究担当)	： 本 間 利 久	(国立大学法人北海道大学大学院)
理 事 (企画担当)	： 平 石 謙 治	(ビー・ティー・ジー・インタナショナル)
理 事 (教育担当)	： 当 麻 哲 哉	(慶應義塾大学大学院)
理 事 (行事担当)	： 片 江 有 利	(株式会社プロシード)
理 事 (渉外担当)	： 杉 村 宗 泰	(日本マイクロソフト株式会社)
理 事 (社会貢献担当)	： 高 橋 正 憲	(PMプロ有限公司)
理 事 (会員担当)	： 三 嶋 良 武	(株式会社三菱総合研究所)
理 事 (広報・宣伝担当)	： 端 山 毅	(株式会社NTT データ)
理 事 (行事担当)	： 徳 永 幹 彦	(株式会社日立インフォメーションアカデミー)

理 事 (財政担当)	: 加 納 敏 行 (財団法人先端建設技術センター)
理 事 (地域担当)	: 渡 辺 善 子 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理 事 (地域担当)	: 弓 削 公 樹 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
理 事 (認定担当)	: 福 島 博 文 (株式会社建設技術研究所)
理 事 (コンピテンシー担当)	: 福 本 伸 昭 (株式会社地銀ITソリューション)
理 事 (コンピテンシー担当)	: 除 村 健 俊 (株式会社リコー)
監 事 (任期4年)	: 大久保 賢吉朗

■最新の会員・資格者情報 (2013年4月末現在)

会員数		資格保有者数						
		PMP [®]		PMI-SP [®]	PMI-RMP [®]	PgMP [®]	PMI-ACP [®]	CAPM [®]
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
424,657人	3,179人	537,413人	30,448人	3人	4人	1人	7人	65人

■法人スポンサー 一覧 (100社、順不同、2013年6月現在)

- 株式会社ジャステック
- TIS株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 株式会社NSD
- 株式会社プロシード
- 株式会社インテック
- キヤノンITソリューションズ株式会社
- NTTコムウェア株式会社
- 日本電気株式会社
- 株式会社ジェーエムエーシステムズ
- アイアンドエルソフトウェア株式会社
- 株式会社NTTデータ
- 株式会社電通国際情報サービス
- 日本マイクロソフト株式会社
- プラネット株式会社
- 株式会社建設技術研究所
- 株式会社テクノファ
- 日本ユニカシステムズ株式会社
- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDC ソフトエンジニアリング株式会社
- 株式会社大塚商会
- 株式会社翔泳社
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社NTTデータ関西
- 日本ユニシス株式会社
- 株式会社JALインフォテック
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- JBCC株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジーズ株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニー株式会社

- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTT データ・アイ株式会社
- NTT データシステム技術株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NEC ネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社三技協
- 株式会社JSOL
- NEC ネットエスアイ株式会社
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 富士ゼロックス大阪株式会社
- 株式会社RINET
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- ソニーグローバルソリューションズ株式会社
- 住友電気情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップランダムアンドアイ株式会社
- PM アソシエイツ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社ヴィクサス
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- セコムトラストシステムズ株式会社
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- 株式会社リクルートホールディングス
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC 株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 株式会社グローバリンクス
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- アーケイディア・コンサルティング株式会社
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム

■アカデミック・スポンサー 一覧 (19教育機関、順不同、2013年6月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 武蔵大学経済学部 松島研究室
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- PMI韓国支部設立1周年記念の「プロジェクトマネジメントの国際会議」へ招待を受けた日本支部事務局長から、その報告を行いました。
- 株式会社アイ・ティ・イノベーションの横尾 誠康氏による講演で好評をいただいた本年5月の月例セミナー「プロジェクトを通した人材戦略、人材育成の進め方、活かし方!! ～組織的アプローチと現場主義を融合させた新しい人材戦略、育成の形～」について、セミナー委員の松本弘明氏からご紹介いただきました。
- 今年で2年目を迎える「グローバル・リーダー香港研修コース」。去る5月23日(木)・24日(金)に開催された本研修コースの概要を、日本支部事務局長から報告いたしました。
- 女性PMコミュニティ WomenOBF (A Community Of the women, By the Women, For the women!) の活動報告の連載を今号から開始しました。第1回目はWG1(現状把握) リーダー高市裕子氏からのご報告です。
- ISO(国際標準化機構)からプロジェクトマネジメントに関するガイドラインがPM全体の枠組みとして初めて発行されました。PC236の委員として参加されている日本支部会員 田島彰二氏からの報告第二弾として、プロジェクトマネジメントをISO化する理由とその内容について解説いただきました。
- 本年5月より試行開始した、「オフライン・セミナー」の提供プログラムについて、概要をご紹介いたしました。
- 8月3日・4日に迫った「PMI日本フォーラム2013」について、プログラム等の全体紹介を掲載しました。
- 皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

■ 記事・体験記を募集しています。

事務局では、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、新しく得られた知識・教訓など、随時募集しています。記事として、PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

■ あなたの合格体験記をニュースレターに投稿しませんか？

皆さまからのPMI®認定試験合格体験記を募集しています。受験の動機・経緯、合格して気づいたこと、これから受験される方へのアドバイスなど、PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

【記事、体験記、広告の問い合わせ先】

お問い合わせは、PMI日本支部事務局まで電子メールでお寄せください。よろしくお願いいたします。

PMI日本支部ニュースレター Vol.55 2013年6月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)